

Joseph H. Mesima  
are



— 新島襄肖像ガラス湿板  
本邦初公開 —

ハリス理化学館同志社ギャラリー 第1回企画展

# 新島襄と八重

2013年 2014年  
11月29日金 ~ 2月28日金

会場 ハリス理化学館同志社ギャラリー 2階企画展示室(同志社大学今出川キャンパス)  
開館時間 10:00 ~ 17:00(11月29日のみ13:00~17:00)  
閉館日 火曜日、祝日、2013年12月23日~2014年1月5日、2月3・4日

入場  
無料

主催：同志社大学同志社史資料センター 協力：福島県、会津若松市、福島県立博物館、若松城天守閣郷土博物館、日本基督教団 同志社教会

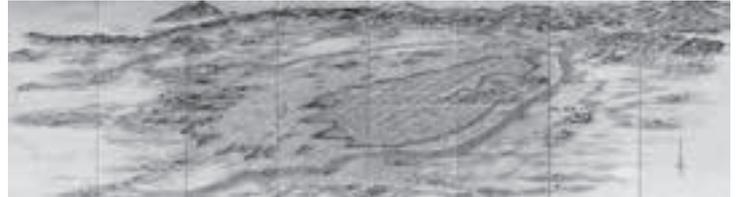
# 新島襄と八重



## 第1章「それぞれの道」

2013年11月29日(金)～12月22日(日)

襄も八重も20代前半で、故郷との断絶を経験しています。この経験乗り越えて、二人は京都で出会いました。そして、互いの個性を認め合い、夫婦となります。第1章では、その互いの個性をはぐくんだ、二人が出会うまでの人生をゆかりの作品を通じてふりかえります。

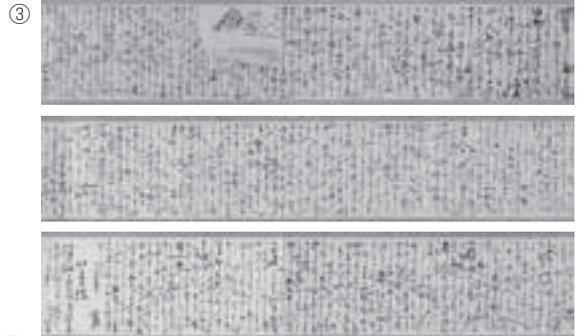


①

## 第2章「2人の14年間」

2014年1月6日(月)～2月2日(日)

近代化のさなかにある京都で、初めてのキリスト教による結婚式を挙げた襄と八重。同志社の校長として、また宣教師として東奔西走する襄と、妻として彼を支えた八重の夫婦としての姿、そしてその14年間の足跡を、2人の愛用品、遺墨、書簡などから探ります。



③

## 第3章「八重の後半生」

2014年2月5日(水)～2月28日(金)

襄の永眠は八重に深い悲しみを与えましたが、八重はそのような状況にあっても自らの生き方を模索していきます。残された遺品は、襄亡き後の八重の後半生41年、国家や日本文化に対する自らのスタンスを模索し続けた八重の生き方を映し出します。



②

④

⑤

⑥

①大須賀清光「会津若松城下絵図屏風」(福島県立博物館蔵) ②刀 銘 河内守藤原国助作笹丸雪  
③新島八重宛新島襄書簡(1880年2月25日付) ④卓上ランプ ⑤篤志看護婦人会正装用帽子  
⑥新島八重「茶手前覚」

### 〈関連イベント〉

ハリス理化学館同志社ギャラリー開館記念  
公開講演会

## 新島八重と「八重の桜」と

【挨拶】山田史郎(同志社大学副学長・ハリス理化学館  
同志社ギャラリー運営委員会委員長)

【講師】吉海直人(同志社女子大学表象文化学部教授)

【日時】2013年12月14日(土) 13:00～14:30

【会場】良心館地下2番教室(同志社大学今出川キャンパス)

入場無料。先着順。満席の場合、お断りすることがあります。

### ギャラリートーク

【日時】11月29日(金) 15:00～

1月6日(月) 13:00～15:00～

2月5日(水) 13:00～15:00～

※いずれも各回30分程度

※事前申込不要

【会場】ハリス理化学館同志社ギャラリー 2階企画展示室

### ハリス・アワー 「襄と八重」の横顔

#### ①「幕末の京都」

【講師】杉原悠三(同志社社史資料センター社史資料調査員)

【日時】2014年1月16日(木) 14:00～15:30

【会場】京都御苑(定員30名)

#### ②「新島夫妻の生活圏」

【講師】布施智子(同志社社史資料センター社史資料調査員)

【日時】2014年1月23日(木) 14:00～15:30

【会場】新島会館(定員30名)

#### ③「夫婦の秘密」

【講師】小枝弘和(同志社社史資料センター社史資料調査員)

【日時】2014年1月30日(木) 14:00～15:30

【会場】同志社大学今出川キャンパス(定員30名)

#### 申込方法

往復はがきに住所、氏名(返信面にも)、生年月日(①をお申込みの方のみ。学外で行うため保険加入の際に必要)、電話番号、希望の回を明記し、下記へ。申込みの受付は、12月9日～20日(消印有効)。入場無料。定員を超えた場合は、抽選となります。各回ごとに参加者1名につき、1枚のはがきでお申込みください。

はがきの送り先: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
同志社大学同志社社史資料センター  
「ハリス・アワー申込」係